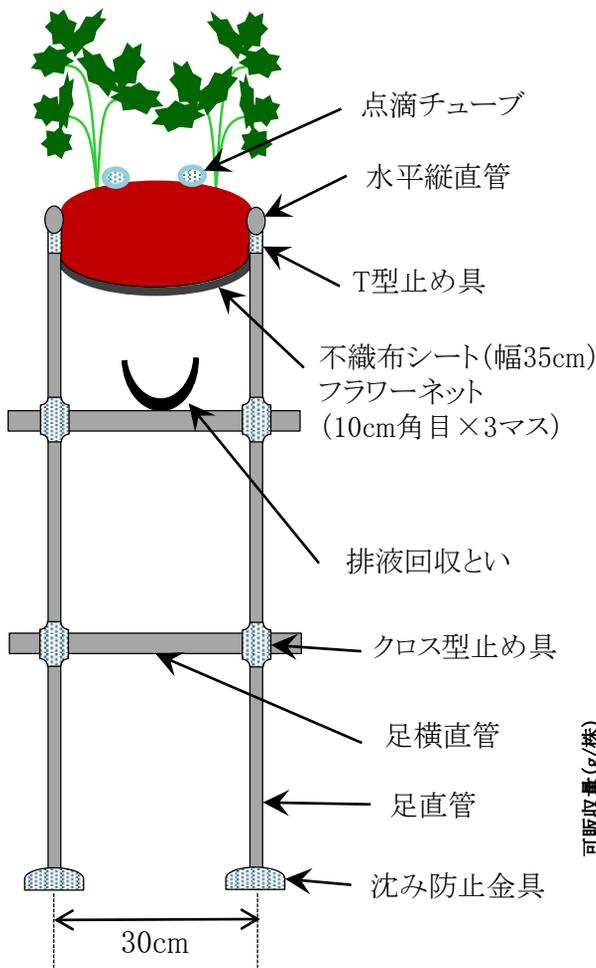


イチゴ高設栽培における「1槽2条型」の栽培技術を確立しました

イチゴ高設栽培「岐阜県方式」は、1槽1条の栽培ベンチが特徴で、新規就農者を中心に導入されていますが、導入コストの低減、作業の省力化を目的に「1槽2条型」の栽培ベンチを導入する生産者もいます。しかし、「1槽2条型」の栽培において、「岐阜県方式」の排液感知型給液制御を用いると、栽培槽が深いため根腐れ等のトラブルが発生し、生産が安定しない事例が見受けられます。

そこで、安定生産が可能な1槽2条浅型の栽培ベンチ規格を作成したほか、栽培層が深い1槽2条深型の栽培ベンチを既に導入した場合の対策として、タイマー制御による給排液管理方法を確立しました。

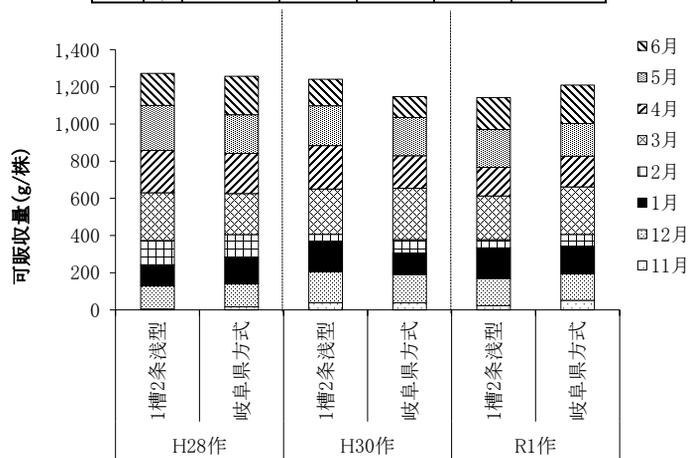


1槽2条浅型栽培ベンチ 規格

1槽2条深型における給液設定

月	晴天時の 吸水量 (ml/株/日)*		給液設定			給液量 (ml/株/日)**
			給液 回数 (回/日)	給液 時間 (分/回)	総給液 時間 (分)	
10月	上	290	3	3	9	300
	中	260				
	下	240				
11月	上	220	2	4	8	267
	中	220				
	下	200				
12月	上	170	2	3	6	200
	中	160				
	下	160				
1月	上	160	2	3	6	200
	中	160				
	下	160				
2月	上	200	2	4	8	267
	中	200				
	下	240				
3月	上	240	3	3	9	300
	中	290				
	下	330				
4月	上	400	3	4	12	400
	中	420				
	下	440				
5月	上	500	3	5	15	500
	中	550				
	下	600				

* 10月～3月における晴天日の見かけの吸水量
(給液量-排液量)の概算値
** 点滴チューブ(吐出量:1L/時/15cm
間隔)を1槽2条型栽培ベンチに本設置した場合の
想定値



1槽2条浅型の可販収量

(研究成果)

- ・1槽2条浅型栽培ベンチは、従来の「岐阜県方式」と比較して、使用する直管パイプ、止め具、不織布シートを約3~4割、排液回収といを約5割少なくできます。
- ・1槽2条深型における給液管理は、晴天時の見かけの給水量と同程度となるよう設定します。具体的には、1回あたりの給液時間を3~4分間とし、給液回数は冬期で2回、給液量が最も多い時期は6回とします。
- ・可販収量は、「岐阜県方式」と同程度です。